# 令和６年度　　学校評価　　学校関係者評価書

| 学校名 | 三木市立緑が丘小学校 |
|---|---|

1　学校教育目標

自ら学び考え、心豊かに、たくましく生きる子の育成

2　本年度の重点目標

・生命の尊厳、人権が尊重され、自己肯定感や所属感、成就感を育む学校文化の醸成。
・個々の実態把握に基づく、心身の調和的発達と個性の伸長並びに学校や社会の一員として主体的に生きる意欲、態度、知識、技能の育成。
・組織的に取り組む校内体制（システム）とモチベーション、当事者意識とつながりを大切にした、風通しのよい温かな学校づくり。

4　自己評価の適切さについての学校関係者評価

【自己評価方法は適切である。】
・学校での取組が、学校評価書の取組（達成）状況にしっかり説明されていて分かりやすく適切な評価と思われる。
・児童・保護者・教職員へのアンケート結果をもとに丁寧に考察して評価されている。
・責任ある回答を聞く意味で記名の回答を継続してほしい。
・それぞれの評価の観点で評価項目が番号で整理され、番号ごとに達成状況、改善の方策にまとめられているため分かりやすい。
・学校での活動が伝わりにくいご家庭については周知の方法を工夫するとともに、家庭での子どもとのコミュニケーションについて啓発してほしい。

3　自己評価結果　（達成状況）　（　A：達成している　　B：おおむね達成している　　C：あまり達成していない　　D：達成していない　）

5　評価の観点ごとの学校関係者評価

| 番号 | 評価の観点 | 評価項目（取組内容） | 取組（達成）状況 | 評価 | 令和７年度に向けての改善の方策 | 学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 学習指導 | ①学習のゴールに向けた見通しの共有、個別最適な学びと協働的な学びのつながりについての研究推進。<br>②認知機能や読解力を高めるためのコグトレ・視写の実施。<br>③学習規律の徹底。<br>④自治的な活動に向かうため、全クラス学級会の実施。<br>⑤推しコン、親子対話などによるキャリア教育の充実。 | ①学習の流れを示すことで、見通しを持ちながら学習活動に取り組ませることができた。授業の冒頭で、計算練習や漢字小テスト等スキルアップタイムに取り組み、基礎基本の定着を図ることができた。全教員が授業研究を行い、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業の研究をすることができた。<br>②朝タイムにコグトレ・視写に集中して取り組むことで、学習の土台づくりをすることができた。<br>③話し方・聞き方レベルアップ表や声のものさしを活用するとともに、話す際の具体的な言葉を自分たちで創り、活用できた。<br>④全クラスで学級会を行うことで、話合い活動が系統的にできるようになってきている。<br>⑤推しコン・親子対話の取組は２年目となるため、児童・保護者ともに充実した内容になり、キャリア教育の一環として将来を見通すことの手立てになっている。 | B | ①令和６年度の取組を継承し、さらに、タブレット端末を効果的に活用し、反転学習や自由進度学習など個別最適な学びと協働的な学びを適切に生かし、子どもの力を伸ばす学習活動に取り組む。<br>②２年目の実施となる来年度も取り組み、学習の土台づくりとなる認知力・集中力を高めていく。<br>③話し方・聞き方レベルアップ表での子どもたちの発言から作る話型づくりを継続して取り組む。<br>④発達段階に応じた学級会を実施し、学級や学校において意見の折り合いをつける児童の育成を引き続き図る。<br>⑤３年目の実施になる来年度も取り組み、より家庭や地域と連携したキャリア教育の充実を図っていく。 | 【評価Ｂは適切である。】<br>・先生方の工夫により、個別最適な学びと協働的な学びが適切に行われており、子どもたちを伸ばす学習活動に取り組まれている。<br>・自分で「学び方を学ぶ」ことは大切な学習である。反転学習や自由進度学習など今年度の取組の効果を検証され、来年度の実践に活かされたい。<br>・一人一人の個性があり、それを互いに出し合え認め合える学びの場であってほしい。 |
| 2 | 道徳・人権教育 | ①自尊感情が高まるような声掛けや、教師と子どものコミュニケーションの充実。<br>②生命を尊重し、思いやりに満ちた人間関係の構築。<br>③自己の生き方について考える「特別の教科道徳」の授業づくりについての研修。<br>④挨拶や清掃、時間遵守等の規範意識や道徳的判断力の育成。<br>⑤地域との交流活動や、お世話になっている方への感謝の気持ちをもつ機会の設定。<br>⑥緑が丘中学校校区４校が連携した、同和教育・人権教育の推進。 | ①指導者との関わりの中で、子どもたちの良いところをほめたり頑張っていることを伝えたりして自尊心を高めてきた。低学年から担任同士の交換授業を行うことで、複数の視点で自己肯定感を育んでいる。<br>②全ての学級で、１回目の道徳の時間に、「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」についての授業を行い、学校として大切にしたい価値観の共有をした。３年生、６年生では、助産師の方を講師に招き、「いのち」について話を聞き、赤ちゃん人形を抱いたり産道体験したりした。自分も友達もかけがえのない大切な命であることを学ぶ機会となった。人権講演会や人権集会で、講師や友だちの話を聞き、互いを尊重することの大切さを感じさせることができた。<br>③長期休業中に講師を招聘した研修会を実施し、親子人権学習のすすめかたについて検討の機会をもった。<br>④児童会、代表委員会の児童による挨拶運動の実施、清掃については美化委員会児童による呼びかけ等、児童主体の活動を行った。<br>⑤友愛クラブやデイサービスセンターひまわり、精愛園との交流など、各学年で様々な学習と結びつけて交流活動を行うことができた。<br>⑥緑が丘中校区で合同研修会をもち、それぞれの取組を交流した。各校の親子人権学習を担当者が互いに参観した。また、合同での現地学習会に参加し、講師の話を聞くことで、同和学習教材の理解を深めた。 | B | ①担任同士の交換授業を継続するとともに、他の教職員の関わりやＳＣ、通級指導など学校全体と外部機関との連携を強化し、子どもたちの様子に敏感に気づき、いろいろな角度から関わりがもてる機会を増やしていくようにする。<br>②３年生、６年生の「いのち」の学習は、継続する。自分も周りの人も大切にできるよう、家庭と連携して思いやりのある人間関係づくりに努める。<br>③より自己との関連で考えさせる教材の選定、授業づくりに取り組んでいく。<br>④規範意識や道徳的判断力の向上に向けて、教育活動全体で様々な角度から取り組んでいく。児童が主体的に取り組みやすい挨拶や清掃活動は、引き続き児童会や委員会などの活動を工夫していく。<br>⑤今後も、今年度の実践を基に、各学年に応じためあてを持ち、取組を継続していく。<br>⑥緑が丘中学校区の４校が人権・同和学習の観点で児童同士、教師間の連携を今後も図っていく。 | 【評価Ｂは適切である。】<br>・担任の交換授業などチームで子どもたちにかかわり、子どもたちの良いところや頑張りを認め励ましい育てる実践は評価できる。<br>・全学年で「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の授業が行われており、言葉のかけ方の大切さを自分たちで考え、実践できるようになってきているのは素晴らしい。<br>・「ふわふわ言葉」が素直に出る学校であってほしい。 |
| 3 | 生徒指導<br>安全・防災教育 | ①主体的に考え動く習慣を身に付けさせるための生活目標の意識化。<br>②気持ちの良いあいさつや返事を基にした豊かな人間関係の構築。<br>③自分を見つめ直し、相互理解を深める取り組みの強化。<br>④家庭・地域や関係機関との連携による、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決。<br>⑤ネットモラル教育等、多様な場面に応じた危機回避能力の育成。<br>⑥火災訓練・不審者訓練・地震訓練の実施による有事の際への対応能力の育成。 | ①各月の生活目標と具体的に合わせた行動（スリッパぴたっと週間、読書ビンゴ、お道具箱ピカピカウィーク等）を見える化することで、児童の行動の意識化を図り、学校生活の改善を図った。<br>②年度初めに緑小１０のルールを児童や保護者に全校朝会やすぐーる等を通して周知し、目標の共有を図りながら豊かな人間関係の構築に努めた。<br>③終わりの会でふりかえりシートを利用し、自分自身の生活を年間を通して振り返る時間を設けた。また、ふわふわ言葉・行動をクラスで考えさせ、自分の目指す姿の実現に向けた取組を進めた。<br>④いじめ防止基本方針を作成し、HPに掲載することにより、保護者への啓発を図った。「心の健康観察アンケート」や「心の健康観察」を実施し、児童の内面の理解に努めた。<br>⑤日々のタブレット活用にあたって、各学級で発達段階に応じた指導を行い、ネットモラルやネット上に潜む危機の回避能力を養った。<br>⑥警察などの外部と連携し、具体的な日時を知らせずに訓練を実施することで、教職員児童の実践的対応能力の向上を図った。また、地域防災（みどりっ子防災フェスティバル）を、三木市防災リーダーの会、家庭と連携して実施した。その際、６年生が中心になって企画・運営の一端を担ったり、５年生が下級生を引率したりと、縦のつながりを基にした体験的な活動を実施することができた。 | B | ①次年度も本校の生活上の課題を踏まえた具体的な行動目標を各月で設定し、主体的に考え動く習慣を身につけさせるための地道な指導・支援を積み重ねる。<br>②緑小１０のルールを年度初めだけではなく、年間を通して使用することで、気持ちよくあいさつすることのよさについて体験的に理解させ、その積み重ねが豊かな人間関係の構築につながることを捉えさせる。<br>③ふりかえりシートなどを活用して、自分と他者との関係性を捉えさせ、自分も相手も大切にできるような関係を構築できる取組を継続する。<br>④「心の健康観察アンケート」や「心の健康観察週間」により、児童の心の変化を汲み取り個に応じた指導を行い、信頼関係を深められるよう努める。<br>⑤タブレット端末を活用した学習の推進に並行して、タブレットを使用する上での共通理解事項を徹底させ、ネットモラルやネットリテラシーについての指導を引き続き行う。情報機器を「学習」のために正しく使い、安全・安心なインターネットの利用の仕方を身に付けさせるようにしていく。<br>⑥多様な場面を想定した不審者対応訓練・火災及び地震避難訓練を継続し、災害から命を守るために必要な知識や思いやりの心を育てていく。 | 【評価Ａに近いＢである。】<br>・各月の生活目標を具体化し、子どもたちが主体的に取り組むことができるよう工夫されていることは評価できる。多くの問題行動に対し、即対応等チームで関わる体制となっているところは素晴らしい。<br>・緑小１０のルールを保護者にも周知しており、家庭と連携した取組がなされていることもよい。<br>・予告なしの防災・防犯訓練は子どもたちにいざという時の実践力・対応力を身につけさせる上で大切であり継続してほしい。また子どもたちのアフターケアについても十分に配慮願いたい。<br>・防災フェスティバルでの６年生のブース補助、５年生の各班でのリーダーシップ等子どもたちが頑張っている様子を見ることができた。家庭でも体験したことが話題となった。体験を通した学びが実践されており評価できる。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 特別支援教育 | ①特別な支援・配慮を必要とする児童の教育的ニーズに沿う、教材や支援方法の提供。<br>②特別支援教育委員会の開催、学校校務システムの活用などによる、職員間での共通理解ならびに支援体制や支援方法の定期的な検討と、合理的配慮の提供。<br>③特別支援学校との交流及び共同学習や、地域の福祉施設との交流学習における狙いの明確化と、実施方法・内容の検討。<br>④入学や通級、進学に向けての計画的な教育相談や学校見学の実施。個別の教育支援計画・指導計画を効果的な活用した、学校園間の連携。 | ①発達段階、学習習熟度、将来における必要度等を考慮し、学習内容を選んだ。繰り返し学習ができるようなプリントを用意したり、楽しく学習できるゲームスタイルやICTを活用した学習方法を取り入れたりした。また、ケース会議を開き、日々変化する児童実態の共通理解を新たにしたり、関係機関から提供された情報を踏まえて支援方法や合理的配慮について検討したりした。そこで、必要と判断した児童には、居場所づくりの一助となるよう、別室を用意する、個々に応じた支援方法での指導時間を設定する等をした。<br>②年間を通して計画を立てて委員会を開いた。共有ファイルを活用して児童について共通理解を図り、支援体制、方法、合理的配慮の内容の検討と提供を行った。<br>③居住地校交流、地域校交流として、特別支援学校と交流及び共同学習を行い、また地域の福祉施設と交流学習を行った。事前にそれぞれ打ち合わせを行い、「社会性を育む」等のねらいや、どのような活動を通して達成するかを考慮した実施方法・内容を確認し合った。<br>④新１年生への教育相談や学校見学を、教育センターや特別支援学校と連携して実施した。園と連携し、児童の実態を把握するための連絡会を持った。また、中学校進学を見据えた４年生以上の児童の家庭との教育相談も行った。通級に向けて、個別の教育支援計画・指導計画を活用した情報共有等を行った。 | B | ①本人や保護者、関係機関から思いや情報を十分に聞き取り、特別な支援・配慮を必要とする児童の実態や、教育的ニーズを把握し、それに合う教材や支援方法を教職員間で検討する機会を持つ。<br>②年間計画に特別支援教育委員会を組み込み、全教職員が共有ファイルを確かめながら個々の現在目標や手立てなどの共通理解ならびに支援体制や支援方法の検討を行い、合理的配慮の提供につなげる。<br>③より効果的に交流学習が行えるよう、事前学習なども含め、目標を明確に計画的に交流学習を実施する。関係機関と密に連絡を取り合い、互いのねらいを共有する。<br>④学校園間で密に連絡を取り合い、有効な支援の共有など、連携を深める。入学や進級、進学に向けた流れを再整理し、それに合わせた教育相談や学校見学を行う。また、個別の教育支援計画・指導計画や連携シートを活用した引継ぎを行う。 | 【評価Ｂは適切である。】<br>・学校は一人一人の児童に寄り添った支援ができていると思う。今後も継続した取組を望む。<br>・子ども達の特性や背景が多様化・複雑化している。保護者や関係機関等と十分に連携を取り、互いに理解を深めながら取組を進めてもらいたい。<br>・自分たちが正しいことを言っているという思い込みに対して、立場軸を変えて一緒に考える等違う価値観に触れる機会を設定してほしい。またみんなが折り合いをつけて納得できる力を伸ばしてほしい。 |
| 5 | キャリア教育 | ①自己有用感や自尊感情の育成。<br>②体験活動の積極的な活用。<br>③キャリアパスポート活用の充実。 | ①代表委員会から発信し、「ふわふわ行動」を認め合う時間を各クラスで設けた。また、１日の振り返りを毎日行うこと、ふわふわ行動の振り返り週間を行うことが、自分の頑張りを振り返るよい時間となった。「できること」をどんどん増やしていこうと意欲的に取り組む児童が増えた。親子の時間では、頑張りを保護者に認められて喜ぶ姿につながった。<br>②みどりっ子班活動を月に２回行った。縦割りで遊ぶ機会が増え、低学年児童は年上の児童にあこがれを持つ姿、高学年児童は年下の児童のお手本になろうとがんばる姿が見られた。なかよしフェスティバルでは6年生が自主的に創意工夫し、ゲームなどのお店を企画運営した。コロナ禍があけ、各学年、実際に体験する活動が増え、深く学べる機会が増えた。特に中学年はたくさんの校外学習に出かけ、外部機関の専門家と連携した教育活動を積極的に行った。推しコンでは、憧れを抱くことにより将来への展望を持てるようになった。<br>③県のキャリアパスポートを使用し、年度はじめ、途中、終わりに振り返りを行った。目標を立てるだけではなく、振り返りを行うことで、自分を見つめ成長していこうという意欲付けにつながっていった。 | A | ①親子の時間は自尊感情が高まるきっかけとなったので、今後も継続していきたい。保護者の方の期待を伝え、学級指導や授業の中で自分が「できること」「得意なこと」「したいこと」など今後の可能性を含めた肯定的な理解につながる声かけを行っていく。<br>②体験活動の充実を図るはもちろんのこと、縦割り班活動を継続し、学年を超えたつながりを大切にしていく。<br>③キャリアパスポートやキャリアノートを積極的に活用し、より自分らしい生き方を実現するための基盤となるように指導計画を工夫する。 | 【評価Ａは適切である。】<br>・みどりっ子班活動の回数を増やし、高学年が活躍する場が増えたことによって、子どもたちの自尊感情が高められていること、また低学年の子どもたちがその様子を見ることによって憧れたり手本にしたりできていることは価値あることである。<br>・児童会主体となって「ふわふわ行動集め」の取組に発展しているのも大変良い。<br>・引き続き子どもたちの自尊感情向上のための取組を工夫願う。 |
| 6 | 家庭・地域等との連携 | ①各学校園、保護者、地域、関係機関と連携。<br>②地域の人材や教材、施設の活用。<br>③学校通信、ホームページ等による情報発信。<br>④保護者並びに地域の方への授業参観、行事等の参加機会の充実。 | ①地域ボランティアによる読み聞かせの開催（おはなし会）、関西国際大学の学生による学習指導（ステップアップルーム）、子どもたちの見守り（人の目の垣根隊）では、地域の方々にご協力いただき、関係機関との連携を図った。また、PTA学年行事、環境整備（かがやき委員会）などの活動でも、学校と保護者の連携も図った。<br>②花植え・昔遊び（１年生）、環境体験学習（３年生）、デイサービスひまわりとの交流（４年生）、精愛園との交流（５年生）、こども園との遊び交流（５年生）やクラブ活動、防災フェスティバルなどの活動を通して、地域の方と共にふるさとの自然や防災について学んだり、ふるさとへの愛着を深めたりすることができた。<br>③学校通信やホームページ、すぐーる等での積極的な情報発信を図った。<br>④授業参観、運動会や音楽会など、子どもたちの日ごろの頑張りを参観頂く機会を設けた。 | B | ①②地域の教材や人材、施設を活用した教育活動を行い、その効果を高める。また、開かれた学校づくりについて努め、学校、保護者、地域、関係機関の連携をより密にしながら教育活動を行う。<br>③引き続き、日ごろの学習や行事の様子について、学校通信やホームページ、すぐーる等で積極的な情報発信を行う。<br>④行事やオープンスクールの実施方法が、ふりかえりや実態に沿うように検討していく。 | 【評価Ｂは適切である。】<br>・地域の方々や施設との充実した連携が行われている。今後も継続願う。<br>・友愛クラブとして、クラブ活動や花植え昔遊び等、実施方法を工夫・改善していく。１年生児童に年賀状をいただき、元気が出た。<br>・学校通信や学年通信、HPで適切に情報発信されている。学校行事等の案内については、すぐーるのタイトルや周知する内容等工夫・検討されたい。 |
| 7 | 学校組織力の向上<br>・<br>教職員資質能力の向上 | ①学校評価や学校関係者評価制度の活用による学校運営の改善。<br>②課題・情報の共有と連携によるチーム力の強化。<br>③業務改善による子どもと向き合う時間の確保。<br>④積極的な研修による教職員のスキルアップ。 | ①前年度の課題や今年度の新たな課題について、より多くの教職員の意見を反映させ、具体的な取組の共通理解を図りながら改善に努めた。<br>②ケース会議や各種委員会だけでなく、「Open Share Team だより」（紙面）、Teams（タブレット端末）等を通して、全職員が課題・情報を共有するように心がけ、課題に対しては担任・担当だけでなくチームで対応するようにした。<br>③学期始・末に短縮授業日を設定した。子どもも教師も余裕をもってスタートを切ったり、子どもの様子をていねいに見取ったりすることができ、業務改善の一端となった。<br>④一人一授業の授業研究、年間３回の全体研（２回は講師招聘）、道徳・人権教育や特別支援教育についての研修を実施し、専門研修講座やICTの自主研修にも取り組んだ。 | A | ①年度当初に学校評価の結果を全員で再確認し、学校評価の「改善の方策」を意識して実施できるようにする。<br>②縦・横の報告・連絡・相談を密にするとともに、ICT機器を活用することで情報を全職員で共有し、連携して課題に対応していく。低学年からの交換授業を継続し、多様な視点で児童の実態把握に努めるとともに、生活指導等の課題についてもチームで対応を進める。<br>③新たな校務処理システム、ICT機器を効果的に活用することで、校務・業務の効率化を図り、子どもと向き合う時間を確保する。<br>④ICT教育やキャリア教育、特別支援教育等、課題・ニーズのある領域の担当中心に研修や情報交換を積極的に行っていく。 | 【評価Ａは適切である。】<br>・様々な課題や情報について、全職員で共有し、チームで迅速かつ丁寧に対応されていることから、先生方の努力が伝わっている。<br>・来年度も積極的に研鑽を積まれ、指導力向上に尽力いただきたい。<br>・学校評価の結果をもとに、良いことの習慣づけを図るとともに、さらなる取組の工夫や改善を図っていただきたい。 |